



# オオバン

*Fulica atra*

我孫子市鳥の博物館友の会

No. 23

2005年3・4月

## コウノトリ 飛来発見記

金成 典知

2004年も押し詰まった12月25日(土)朝7時頃、いつものように中野さん(久夫氏、当会事務局長)に附いて北新田を利根川に向かって歩いていると、前方左、2号排水路の200mほど手前で、カラスが2羽、何かを威嚇するように鳴きながら舞っている。目を凝らすと、落し堀の岸に何か大きな白い鳥が立っていました。双眼鏡をあてると、足がピンクで、嘴は長くて黒く、真っ白な体の風切部分が黒い。コウノトリとの初めての対面です。

嘴をさかんに振るわしているのは、何か大きなものを飲み込もうとしているためで、少し近づいて見ると、それは大きなウシガエルでした。頭から丸飲みしようとするのですが、大きすぎて口の中に入りません。何度も飲み込もうとしては落し、長い嘴で突付いて小さくしようとするのですが、コウノトリの嘴はサギ類のようには鋭くないようで、切り刻むことができません。30分ぐらい悪戦苦闘していましたが、ついに食べるのをあきらめ、次の獲物漁りに取りかかりました。搾り水がわずかにある程度の小さい堀ですが、意外にもドジョウやモツゴがいて、泥水の中から嘴で探り出して食べていた。このコウノトリはあまり人間を警戒せず、我々は比較的近いところで観察することができまし

た。小一時間経ったところで他の人たちにも見てもらおうと考え、中野さんは残り、私は(携帯がないので)家に急いで戻って、近くの西巻さん(実氏)、岡本さん(信夫氏)に連絡しました。二人を加えて四人で観察した後、岡本さんの携帯で鳥の博物館の時田さん(賢一氏)に来て貰い、駆けつけた時田さんが、付き合いのある記者クラブに連絡をしました。こうして、「コウノトリ我孫子に現る」のニュースが世に出たのです。

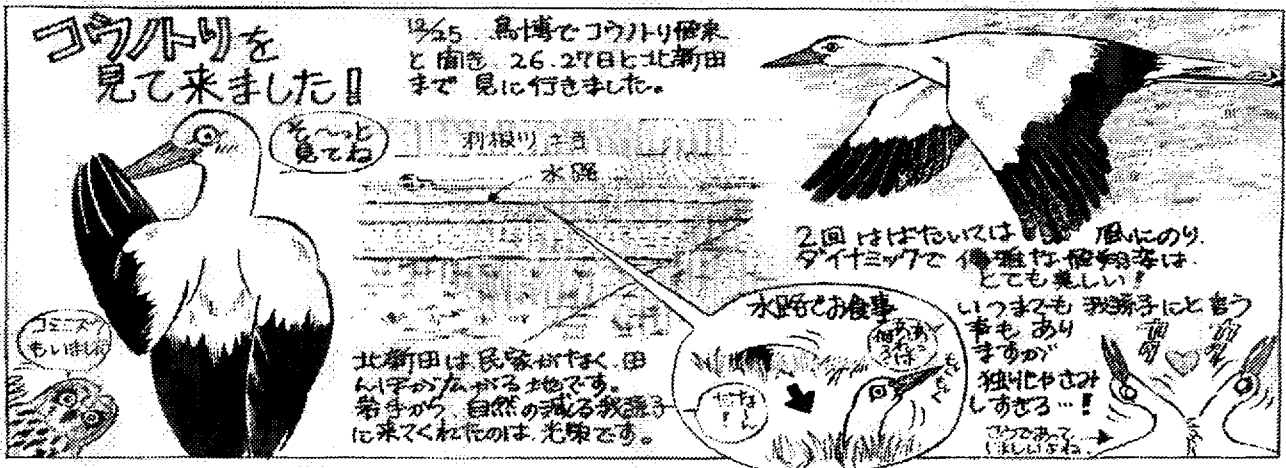
コウノトリが来てくれたことで、この我孫子が、コウノトリのすみかになるほど、まだ自然に恵まれていること、鳥の博物館や山階鳥類研究所があって、野鳥が好きな人たちが沢山住んでいること、が、全国規模で知られたと思います。その意味でコウノトリには感謝したいと思います。コウノトリがいつまでいてくれるかはわかりませんが、当地で元気で越冬してくれることを期待しています。

## コウノトリ

かつては日本各地で繁殖していたが明治以降激減し、1956年に特別天然記念物に指定されたがその後繁殖の記録は無く、1971年に最後の1羽が豊岡市で保護されたが死亡絶滅した。

冬鳥としてロシアや中国大陸から稀に1、2羽飛来する。現在豊岡市の保護増殖センターで人工飼育をしており、100羽を越えるまでになり、本年より試験放鳥を行なう。

イラスト：森元夏木



## 行事案内

### 【平成17年度総会】

日時 4月17日(日) 13:30～14:45  
場所 鳥の博物館講堂  
議題 平成16年度活動報告、同決算報告  
平成17年度事業計画、同予算計画  
役員改選  
その他

皆さんこそって参加下さい。

### 〔ビデオ鑑賞〕

総会終了後、次のビデオ鑑賞を予定しています。

日時 4月17日(日) 15:00～16:00  
場所 鳥の博物館講堂  
内容 ① 兵庫県コウノトリの里提供のコウノトリのビデオ(約30分)  
② 北新田のコウノトリ(約30分): 時田学芸員撮影

### 【北新田・ゆうゆう公園探鳥会】

日時 4月30日(土) 雨天中止  
集合 我孫子市役所前 8:30  
車に分乗して行く。  
解散 正午頃の予定  
内容 北新田と観察施設の整備が進められているゆうゆう公園で春の渡りのシギ・チドリなどを探鳥。  
持物 観察用具・図鑑・筆記用具、雨具。  
申込 Tel/Fax/E-mailで中野に、車を提供いただける方はその旨も。  
Tel/Fax 04-7184-5419  
Mail h\_nakano@js6.so-net.ne.jp  
担当 中野久夫、染谷迪夫

### 第24回役員会

日時 4月9日(土) 13:30～16:00  
場所 鳥博会議室  
議題 1. 報告  
2. 5月以降の行事  
3. 会報「オオバン」No. 24・25号の発行  
4. 総会の議案  
5. その他

## 鳥の絵教室

第74回 3月19日(土)  
第75回 3月27日(日)  
第76回 4月16日(土)  
第77回 4月24日(日)

第3土曜日と第4日曜日です。

9:30～12:00 友の会ルームで。  
なお、3月から希望の標本を予約することになりました。欠席のため次回の予約ができなかったかたはハガキで下記にご連絡下さい。

(開催日前の木曜日必着、第1～第3希望まで)  
270-1121 我孫子市中峠3759-5 島崎純造

## 鳥凧同好会

### 鳥凧の製作会合

期日 3月5日(土) 8日(火)  
4月2日(土) 5日(火)

時間 13:30～16:00

場所 友の会ルーム

鳥凧同好会では、それぞれが独創的な鳥凧作りに挑戦しています。興味ある方は遠慮なく見学にお出でください。

## デジカメ同好会

### ◆ 3月の会

#### 秋ヶ瀬公園撮影会

期日 3月9日(水)  
雨天時: 室内会予定日3/19(土)に延期  
集合 我孫子駅北口 7:30  
交通 自家用車に分乗して行く。便乗者は運転者に1,500円(含高速代)支払う。  
内容 さいたま市秋ヶ瀬公園で山野の鳥を撮ったあと、隣接の戸田市彩湖にまわり水鳥を撮る予定。  
持物 撮影用具、雨具。弁当(途中コンビニでも購入可)  
申込 会合時又はTel/Fax/E-mailで中野に、車を提供いただける方はその旨も。  
Tel/Fax 04-7184-5419  
Mail h\_nakano@js6.so-net.ne.jp  
担当 西巻実、中野久夫

### 室内会

日 時 3月19日(土) 13:30～16:00  
撮影会の延期時:3/9の撮影会延期で、  
この日開催するときは室内会中止。  
場 所 友の会ルーム  
内 容 撮影会などの作品発表他

### ◆ 4月の会

#### 霞ヶ浦撮影会

期 日 4月16日(土)  
雨天時:室内会予定日4/23(土)に延  
期。ただし、行先を変更することあり。  
交 通 自家用車に分乗して行く。便乗者は運  
転者に1,500円支払う。  
集 合 我孫子市役所前 8:00  
内 容 霞ヶ浦町のハス田や霞ヶ浦でツルシギ  
などのシギ・チやハジロカイツブリな  
どを狙う。  
持 物 撮影・観察用具、雨具、弁当(途中のコ  
ンビニでも購入可)  
申 込 会合時またはTel/Fax/・E-mailで中野  
に、車を提供いただける方はその旨も。  
Tel・Fax 04-7184-5419

E-mail h\_nakano@js6.so-net.ne.jp

担 当 西巻 実、中野久夫

### 室内会

日 時 4月23日(土) 13:30～16:00  
撮影会の延期時:4/16の撮影会延期  
で、この日開催するときは室内会中  
止。  
場 所 友の会ルーム  
内 容 撮影会などの作品発表他

### 原稿募集

前号から「オオバン」が大判になりました。  
これを機会に会員の皆様から原稿を募集しま  
す。鳥に関するエッセイ、詩歌、イラストそ  
他ジャンルを問いません。また、鳥に関する質  
問や本紙に対する要望なども受けたいと思いま  
す。親しめる紙面作りのため皆様の投稿をお待  
ちしています。

#### 原稿送付先

〒270-1164我孫子市つくし野3-7-105 岡本宛  
FAXは 04-7184-6024  
Emailは okamoto.n@jcom.home.ne.jp

### 鳥博セミナー

#### ブナの森

—虫の目から見た鳥たちの生活—

NHKの番組「さわやか自然百景」で活躍され  
ている平野伸明さんをお招きし講演会を開催  
します。平野さんは映像作家としてNHK地球ふ  
しぎ大自然など自然番組を多く手がけられ、  
私たちに大自然の素晴らしさを伝え続けてい  
ます。

今回、ブナの森で考えた「虫の目から見た鳥  
たちの生活」をテーマに3年に及ぶ秋田県森  
吉山での取材をとおり、そこで得られたさま  
ざまな生き物の生活にまつわるエピソードや  
映像秘話などの楽しい話題など映像を使って  
お話していただきます。

日 時 平成17年3月12日(土)  
午後1時30分より3時まで  
場 所 鳥の博物館2階講堂

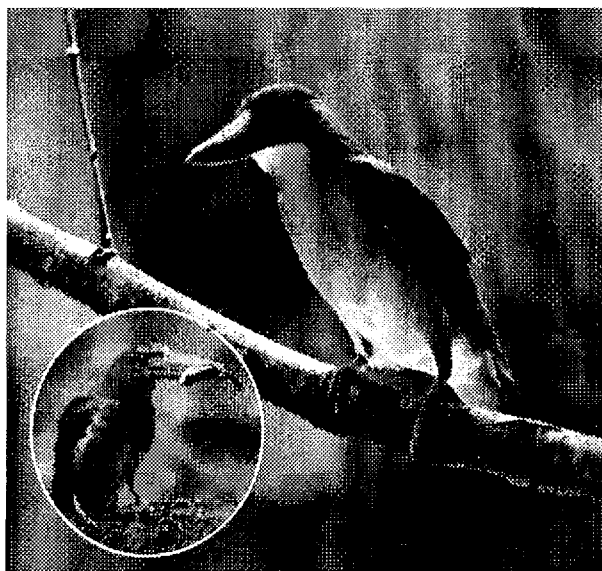
講 師 平野伸明(映像作家)

定 員 70名

申込方法 電話で申し込み、定員になり次第  
〆切

申込先及び問い合わせ先

鳥の博物館 電話 7185-2212



アカショウビン 撮影:平野伸明

## 行事報告

博物館見学会

国立歴史民俗博物館

1月16日(日) 川上 貢

今回の当初計画は探鳥を主体に千葉市泉自然公園と加曽利貝塚博物館見学の予定だった。

それが昨夜からの雨が降り止まず、急遽行き先を佐倉市の「国立歴史民俗博物館」見学会に切替え、予定の8時に我孫子駅前をマイクロバスで出発、市役所前で若干名を拾い、参加者は全部で18名。

博物館の開館時刻は9時半、このまま行けば早く着きすぎてしまうので、途中ホオジロガモを見ていこうと中野さんから提案があった。当地では珍しい水鳥で未だ見たことがない人も多く、期待して利根川に近い古戸に向かった。ここに流れる用水堀に最近1羽来ているという。全員バスを降り最近写真も撮った諏訪さんの案内で居ると思われる堀のほとりを歩いて探した。

雨はたいしたことはないが西風がひどく傘を壊す人も出る始末、にも拘わらずホオジロガモはどこへ飛んでしまったのか30分ほど探しても見つからず、私どもは再びバスの人となった。(皮肉にも翌日以降またここで見られている)

博物館には順調に9時半に到着、午後1時にバスに戻り雨が上がっていたらこの城趾内で探鳥しようと決まり、それまでは各自自由行動となり

直ちに入館した。まだこの博物館へ来たことのない人のために簡単に触れておこう。ここは日本の歴史と文化について総合的に研究展示する国立では唯一の歴史博物館として22年前にオープンした。堀田氏の居城だった佐倉城趾の一角に位置する。館内は第1展示室～第5展示室と企画展示室、それに講堂、図書室、売店、レストランを併設し延べ床面積3万5千㎡と広大だ。原始・古代から近代に至るまでの日本の歴史と日本人の民俗世界をテーマに、幅広く実物の資料や精巧な複製品、復元模型を展示している。そのボリュームに圧倒されるばかりだ。

久しぶりにここを訪れた私は最初は丹念に見て回るつもりで第1展示室へと足を運んだが、食事時間を除く3時間ではやはり駆け足にならざるを得ない。ただ少ない時間の中でも企画展示室での今月のテーマ「新収資料の公開」はもともと興味深く見ることができた。江戸時代前期に作られた日本地図「南瞻部州大日本国正統図」、歌舞伎役者が亡くなったとき描かれた「死絵」、未完成ではあるが背中から裾にかけて友禅染で鯉を見事に描いた武家女性の夏用衣料である「松藤杜若水辺鯉模様帷子」、怪談・妖怪コレクションなどにも気を引かれたが、その中でも3点の実物の高札「渡海禁止」、「偽金銀銭禁止」、「徒党・強訴・逃散禁止」が見られたのは良かった。かつて中山道を歩いた折に幾つ

かの宿場で復元の高札場を見ているがやはり実物を見るにしくはない。板はかなり風化しているが文字は墨で保護されてきたため浮き彫りになっていて、いやでも歴史を感じさせられる。私もその時代にあって幾人かの町民たちと一緒にこの高札を見上げ読んでいるかの如く錯覚するほどだった。

食事が済んでバスに戻っても雨はむしろ強くなるばかり、天気予報では午後は上がる筈だったがやむなく探鳥をあきらめ、早いけれど帰ることになった。途中印旛沼に立ち寄り、籠抜けで以前から住みついている桃色ペリカンを見ることとした。風も強く僅かの人がバスから降りた。鳥は岸边近くにいたが人慣れしていて私たちが近寄ってもまるで動じない。ここは早々に引き上げた。

道路は渋滞することもなく、早くも2時過ぎにはまた古戸に戻り、今度はバスに乗ったまま堀沿いの道を走りホオジロガモを探した。結局見つからなかった。バスはそのまま我孫子駅に直行、見学会を終了した。雨天で探鳥会は出来なかったが全員それぞれが良い思い出ができた行事となった。

<参加者> 岡本信夫、小川克子、金成典知、小林保子、諏訪哲夫、寺田久美子、中西榮子、西巻実、山本貞江、木村稔、小野勇亮、小野史子、黒田力、野口幸子、吉田隆行、黒田健一郎、中野久夫、川上貢

以上 18名

---

---

## 第20回友の会講座

「ハマシギの渡りと保護」

1月15日(土、祝) 木村 稔

---

---

日本に渡来するシギ。チドリ  
のなかで最も目にすることの多  
いハマシギについて山階鳥類研  
究所標識室の茂田良光さんの講  
演を聞きました。永年鳥類標識  
調査をしている茂田さんによる  
と70から90年代以降個対数は  
減少を続け小櫃川河口では10分  
の1以下になっているようだ。

ハマシギは10の亜種があり  
5亜種が日本に渡来する可能性  
がある。ハマシギは旧北区と新  
北区の極北地方の高緯度で繁殖  
するが各亜種の渡りの経路と越  
冬分布についてはよく判ってい  
ないという。そこでハマシギを  
含むシギ、チドリ類の観察と標  
識固体の観察情報の提供が呼び  
かけられている。標識の付いた  
ハマシギの観察記録の近いところ  
では谷津干潟、船橋市三番瀬、  
多摩川河口、などがある。探  
鳥の際には、足のフラッグやリ  
ングに注意してみよう。

繁殖地での調査の方法、調査  
で判ったこと、早急な保護対策  
が必要なこと、その仕事の大変  
さなど多くの興味ある講演でし  
た。

---

---

## 第4回友の会映写会

2月11日(金、祝)

中野久夫

---

---

鳥博講堂で開催した。今回は9  
名の方からデジタル写真295点、  
2名の方からビデオ2本の発表  
があった。

皆さんの腕も大いに向上し、  
北新田に飛来したコウノトリ、  
伊豆沼撮影会のガン・ヒシク

イ、江蔵地のホオジロガモの写  
真など、素晴らしい作品が数多  
く発表された。また松田さんか  
らは、幕張のコアジサシ、時田  
さんからは北新田のコウノトリ  
のビデオが紹介された。

〈作品発表者〉(敬称略)

デジタル写真

中野久夫:北新田のウハトリと猛禽  
類 40点

村上 稔:香港の鳥 40点

吉田隆行:伊香保の池の鳥等  
40点

大久保陸夫:井頭公園のトモガモ  
等 16点

田中 功:波崎のクヅハラギ等24  
点

岡本信夫:北新田のハリヤジュリン  
等 30点

諏訪哲夫:市川サト公園のアカハ  
等 30点

中西榮子:伊豆沼撮影会の写真  
等 40点

西巻 実:波崎のウサギ等年間の  
鳥・草花 40点

ビデオ

松田幸保:幕張のコアジサシ 10分

時田賢一:北新田のウハトリ 10分

〈参加者〉田中功、諏訪哲夫、岡  
本信夫、松田幸保、吉田隆行、楫  
西雄介、寺田久美子、荷見睦子、  
穴田勇、穴田貞子、小野史子、与  
那嶺勝繁、染谷迫夫、中西泰三、  
中西榮子、飯島博、百瀬いずみ、  
小坂陽子、坂巻道代、広重寿子、  
小玉文夫、村上稔、大久保陸夫、  
時田賢一、森元夏木、西巻実、中  
野久夫、他5名 計33名

---

---

友の会懇親会

2月11日(金、祝)

岡本信夫

---

---

恒例の鳥博友の会の懇親会  
が、さる2月11日に我孫子駅南  
口の「養老の滝」で行なわれま

した。

当日は午前中鳥風同好会の風  
揚げ会、午後から鳥の写真映写  
会が開催され、その流れを受け  
て毎年開催されているもので  
す。

午後5時40分、当日参加いた  
だきました中野館長のご挨拶と  
乾杯の発声で開演。

日頃探鳥会、講演会、各同好会  
などで顔を合わすものの、会員  
が一堂に会して親しく懇談する  
機会もなく、年1度のこの日が  
楽しみな一時となっています。

お酒が入ると共にそれぞれ交  
流が始まり、あちらこちらで輪  
が出来、昨年末飛来したコウノ  
トリや珍鳥、さらに鳥風、映写  
会などさまざまな話題で盛り上  
がり時間の経つのも忘れるほど  
でした。

最後に西巻さんの閉会のご挨拶  
と染谷さんの一本締めで盛会  
裡のうちに終了しました。

〈参加者〉飯島博、中西泰三、中  
西榮子、西巻実、諏訪哲夫、吉  
田隆行、村上稔、小玉文夫、中  
野久夫、黒田力、時田賢一、中  
野芳美、与那嶺勝繁、松田幸保、  
内田聖、芹沢正子、染谷迫夫、田  
中功、今村詮、大久保陸夫、坂  
巻道代、寺田久美子、岡本信夫  
計23名

---

---

デジカメ同好会

室内会 12月18日(土)

西巻 実

---

---

前回の撮影会(11月27日水元  
公園と12月2-3日伊豆沼)など  
の発表。2回分のためか発表は  
多い。しかし狙うのはほぼ同じ  
で、レベルもあがりその点でも  
似た作品が並んだ感がある。こ  
れからは一段と工夫しないと目  
立つ作品にならず、むつかしく

なった。また松田さんのビデオも見られ、動画の強さを印象づけられた。

今月の展示作品は中西栄子さんのタヌキと安野さんの伊豆沼の日の出にきまった。

なお、展示作品のプリントを長らく担当していただいた今村さんと川上さんから、担当を交代して欲しいとの要望があったので交代希望者を募ったところ中西泰三さんと安野さんが希望され、今月から交代する。

[参加者] 諏訪哲夫、西巻実、田中功、岡本信夫、安野昌彦、中西泰三、中西栄子、吉田隆行、松田幸保、村上稔、黒田力、中野久夫、計12名。なお、午前に興和の製品説明があり、山田営業課長と前川課員が室内会を見学した。

---

#### デジカメ同好会

撮影会 1月10日(月・祝)  
西巻 実

---

中野さんがコウノトリ調査のため不参加。中野さんの計画に従い諏訪さん、西巻で実施。

[乙戸沼] 快晴微風で低温、湖面の入り口近くは結氷していた。お目当てのヨシガモはいるが全体にカモは少なめ。ハシビロガモが増え、ここも汚れてきたのか心配。珍しくコハクチョウにまじってオオハクチョウがいた。

近くのレストランで昼食。

[牛久自然観察の森] あまり鳥がいなくて、シロハラが枯れ葉をかき回すのが見られた。奥の森で二人連れに教えられ、キツツキの木をつつく音が聞こえる。私にもよく聞こえるので大きい音。音量と音のピッチからアカゲラなどを予想したら姿はコゲラ。よほど良いドラムらしい。

[利根町のコミミズク] しばらく眺めたがチュウヒも飛ばない。わずかにツグミなどがあるだけ。これだけの場所に餌になる小動物などが全然いないというのも不思議。なにかあつたのか？

[参加者] 諏訪哲夫、西巻実、田中功、小玉文夫、大久保陸夫、山本貞江、金成典知、由川憲夫、吉田隆行、安野昌彦、川上貢、フレッド・チヒマン、計12名。

---

#### デジカメ同好会

室内会 1月22日(土)  
西巻 実

---

鳥博セミナーを本日午後実施のため室内会を午前に変更した。急の変更のため出席者は少ない。

いつものように映写。今日は欠席だが中野さんが精力的に撮影している。村上さんの香港の写真が違う鳥で新鮮。チヒマンさんも出品した。

皆さんのレベルがそろい、似た程度の作品が並び、展示作品の選定が難しくなった。中野さんのコウノトリとアオサギ、岡本さんのユリカモメ、諏訪さんのメジロを候補にし、今月はわかりやすいことを主眼に選定。中野さんと諏訪さんの作品を展示することにした。

諏訪さんから鳥博の絵葉書の締め切りが1月末に迫っていること、西巻から2月11日の友の会映写会のこと締め切りは2月8日のこと、11日の映写会後の懇親会のこと(岡本さん説明)、2月19日の撮影会のこと、などの注意があつた。11時前に終了。

[参加者] 諏訪哲夫、西巻実、岡本信夫、村上稔、小玉文夫、吉田隆行、フレッド・チヒマン、計7名。

---

#### 鳥凧同好会報告

とりで利根川凧揚げ大会  
に参加できず

中野久夫

---

鳥凧同好会は、取手市の緑地運動公園で毎年1月に開催される「とりで利根川凧揚げ大会」に一昨年参加し、2年連続して会員が最優秀の県知事賞を受賞してきた。

今年も最優秀賞を取るとみんな張り切っていたが、開催日の1月15日(土)はあいにく雨で22日(土)に延期されてしまった。しかし、22日は南房パラダイスの鳥凧展示指導に行くため、今年は参加せず非常に残念であった。

---

#### 鳥凧同好会

南房パラダイスで鳥凧展示  
中野久夫

---

房総半島の先端、館山市にある千葉県観光公社の南房パラダイス(植物園)からの依頼で、1月23日(日)から2月6日(日)まで、同園のフラワーパビリオンの展示館で鳥凧展示を行った。会のメンバー8人から38点の出品があり、いろいろな種類の鳥凧が数多く揃っていて、来園者に非常に好評であったと南房パラダイスから感謝された。(鳥凧出品者) 荒川秀夫、平井榮作、与那嶺勝繁、寺田久美子、小野史子、黒田力、黒田健一郎、中野久夫 計8名

---

---

鳥凧同好会

凧揚げ会

2月11日(金、祝) 中野久夫

---

---

例年通り、2月11日(金、祝) 10:00から親水広場で鳥凧同好会の凧揚げ会を開催した。今年1月からアカオネットイチョウの鳥凧を作り始めた高木さん・清

水さんも、この日に間に合うよう頑張って完成し参加された。しかし、当日は風が非常に強く、墜落して骨を折ったり羽が破れたりして、ビニール凧以外はうまく揚げるができなかった。凧揚げは11時頃に中止し、友の会ルームで5月のEnjoy手賀沼では、今北新田に来てい

るコウノトリの鳥凧を作ってあげようなどと、今後の鳥凧構想について話し合った。

〈参加者〉清水輝子、高木菁子、寺田久美子、荷見睦子、野口幸子、小野史子、与那嶺勝繁、与那嶺たつ子、荒川秀夫、黒田健一郎、黒田力、中野久夫  
計12名

---

---

## ” 人と鳥の共存 ”

水質浄化はこれで良いのか

鈴木 正吾

1月24日の新聞に〔「地元の鳥に黄信号？」我孫子のオオバンや千葉のコアジサシが環境の変化で数が大幅に減少している。〕と言う記事が載っていました。その原因は、沼周辺の散策コースが整備されて、人々から見られ易くなり、隠れ家がなくなったことも背景にあるのではないかとされています。

私は、リタイア後12年間も欠かさず、毎朝4kmの散策を続けていますが、秋から冬に渡って来る色とりどりの鳥たちを見るのを楽しみにしているのですが、ここ数年来その数(種類も)が減っているのに、危惧を感じていました。

手賀沼の水質浄化に巨大な額を投じた“北千葉導水事業”と沼底の“汚泥の浚渫事業”によって、汚染度No.1を脱出しましたが、本当にこれで良いのか疑問を感じています。

例えば、9トン/秒(1分間で25メートルプール1ばい分)という大量の利根川の水を流

入していますが、そのために魚や水性植物の生態が変わってしまったと聞いています。また、浚渫事業によって吸い上げられた汚泥の量は、相当のものがあありますが、鳥や魚が生息するために必要な苔や水草を、根こそぎ吸い上げてしまっているのではないかとという声も聞かれます。

この二つの事業によって、水質浄化は着実に成果が上がっていますが、一方では却って水鳥や魚が住みにくい環境に変えてしまっているのではないかと率直に疑問を感じています。

鳥の博物館のキャッチフレーズにも“「人と鳥の共存」を目指します”とあります。また、かつて沢山の雁や鴨がやってきた環境を、水質浄化で取り戻そうと努力して来た事が、却って鳥や魚の数を減らしてしまっているとしたら、本末転倒です。

水質の悪化は、手賀沼に流入する周辺地域の人口・事業

場数の増加により、その生活排水や工場廃水の悪化に起因しているのは明らかです。水質浄化の対策は、本来これらの生活雑排水や工業用廃水の浄化が決め手です。

従って、生活排水については関係市町村の協議機関もあることなので、各市町村で揃って条例を作って、自治会を通じて具体的に“汚染物を流さない、汚さない”事を守らせることが最も肝要であり、工業廃水についても有害物質の使用禁止をすると同時に、廃水検査を厳しくチェックして、公害を出させないように、(場合によっては排水基準を改正して)追及していく事が大事であると思います。

それと相まって大事なのは、自然の水質浄化力です。土壌中の微生物や植物の作用による水質浄化の効力が大である事を考えると、水性植物面積の拡大、蘇生にもっと積極的に取り組んで、鳥や魚の住み良い環境を整備・拡充して、“人と鳥(魚)の共存”を確実に実現できるように期待したいと思います。

## 鳥博からのお知らせ

### ◆自然観察会「谷津田で春を見つけよう（仮題）」

日時 3月21日(月、祝) 9:00～12:00

場所 岡発戸・都部の谷津田

集合 JR成田線東我孫子駅前 9:00

参加方法 電話で事前申込(先着30名)。詳しくは市広報(3/1号)を参照ください。

申込・問合せ 我孫子市鳥の博物館

Tel 04-7185-2212

内容 谷津ミュージアムとして我孫子市が保全する、岡発戸・都部の谷津田を散策しながら、小鳥のさえずり、日だまりの花など、生き物の姿やくらしに春を探します。

### ◆鳥博定例探鳥会「てがたん」

日時 3月12日(土)

4月9日(土)

毎月第2土曜日の午前中開催

集合 鳥博玄関前午前10時、正午解散、雨天中止

内容 鳥博前の手賀沼遊歩道周辺で鳥や虫、草花などを観察します。

申込み 不要

### ◆第41回企画展「あびこにコウノトリがやってきた（仮題）」

期間 4月29日(金、祝)～9月18日(日)

内容 昨年末(平成16年12月)に、日本では野生の姿が見られなくなって久しいコウノトリが渡来し、多くの人たちが見守り関心を集めました。かつて日本全国の農村に普通に見られたコウノトリがなぜいなくなったのか? 約120年の歳月を経て、今なぜ我孫子に現れたのか? コウノトリが我孫子に渡来した意味を検討し、今後人と鳥が共存するためにできることを考えてみます。

### 【鳥の博物館の休館日】

3月 7日(月)、14日(月)、22日(火)、28日(月)

4月 4日(月)、11日(月)、18日(月)、25日(月)

## 事務局からのお知らせ

### ◆平成17年度会費納入のお願いと会員証更新

同封の振替用紙で、平成17年度の会費を3月中に振込み下さい。振込みの確認が取れ次第、平成16年度の会員証(4月1日から有効)をお送りします。また、鳥の博物館に協力頂き、3月1日から博物館1階の窓口でも会費納入の受付を行いますのでご利用ください。

なお、17年度の新会員証が3月中に届かない場合、4月30日までは16年度の会員証で博物館に入館できます。

### ◆会員数

2月15日現在の会員数は152名(家族を入れると219名)です。

### 編集ノート

昨年末、我孫子にコウノトリがやってきました。コウノトリは幸の鳥に通じるということで、各地から大勢のバーダーが訪れ大変賑わいました。

発見した時の状況を第1発見者の金成さんに、そしてその後ご覧になったときの様子を森元さんに素敵なイラストに描いていただきました。コウノトリにはいつまでも居てもらいたいものですが、さて棲むための環境はどうでしょうか。

汚染度No.1だった手賀沼も浄化作戦の効果でずいぶんきれいになりました。反面鳥の数が減ったようです。

人と鳥の共存のための環境整備の仕方にも問題がありそうです。鈴木さんに書いていただいたエッセイ。みんなで考えなければならない永遠のテーマではないでしょうか。(O)

オオバン 23号

発行 我孫子市鳥の博物館友の会

発行人 笹川昭雄

編集人 寺田久美子 松田幸保 岡本信夫

事務局 中野久夫

〒272-1145 我孫子市高野山234-3

我孫子市鳥の博物館内

TEL 04-7185-2212 FAX 04-7185-0639

会費 小中高学生会員 1,000円 一般会員 2,000円

家族会員 3,000円 賛助会員1口 10,000円

振替 我孫子郵便局 口座00160-8-36727

我孫子市鳥の博物館友の会